

令和6年6月行事予定

1	土	家庭学習記録開始(6/1~6/30)	県 総 体
2	日		
3	月		
4	火		
5	水	☺	
6	木	全校朝礼 ALT 来校 PTA 保健体育部会② ⑦紙産業に関する講演会(2年生)	
7	金	⑥総探 ①~③実力診断テスト(50分 1~3年) 校納金口座振替 県高P連理事会・定期総会 ⑤⑥紙のまちコース用水見学(3年)	
8	土	同窓会総会(ユーホール)	
9	日	土居高生による交通安全教室とサイクリング体験	
10	月		
11	火	②③田植え交流会(3年:アグリ 小林保育園)	
12	水	⑥グループ結団式 ☺	
13	木	特別時間割6限授業 中高連絡協議会 アルバイト説明会	
14	金	⑥総探(卒業生によるキャリアガイダンス) 日本漢字能力検定①	
15	土		四 国 総 体
16	日	第148回全商ビジネス計算実務検定試験	
17	月	期末考査発表 学年集会(全学年) ALT 来校	
18	火	ALT 来校	
19	水	③④巡回型介護教室(3年生活と福祉) ☺	
20	木		
21	金	⑥総探(紙に関する講演会)	
22	土		
23	日	第98回全商簿記実務検定試験	
24	月		期 末 考 査
25	火		
26	水	☺	
27	木		
28	金	学年集会(全学年) 運動会団役員会① 土居中学校一日体験入学(午後)	
29	土	進研記述模試(1・2・3年)	
30	日	第72回全商ビジネス文書実務検定試験 市P連親善球技大会(アリーナ土居)	

☺…スクールライフアドバイザー来校日

御意見・御感想は電話またはFAXでお願いいたします。

電話：0896-74-2017 FAX：0896-74-7221

教務課より

●期末考査について

6月24日(月)から期末考査が始まります。成績が良くなければ進級や卒業ができなくなることがあります。以下のことに心掛け、しっかりと学習をして期末考査に臨めるように、御家庭での協力をお願いします。

- ①規則正しい生活パターンを確立する。
- ②考査の対策は2週間前から始める。
- ③苦手教科は早くから念入りに学習する。

生徒課より

●衣替えについて

今年度から制服の移行期間はなくなりました。夏服になると、シャツ出しや下着の違反など身だしなみが乱れがちになります。御家庭におかれましても、夏服のさわやかな着用について御指導をお願いします。

○男子

シャツ：白のカッターシャツとする。色ものや柄物、ボタンドアウンのシャツは禁止。ただし、開襟シャツは認める。
ベルト：黒、濃紺、または茶色。ベルト幅は3センチ程度とし、細いものや光るものは禁止。

○女子

ブラウス：本校指定のもの。
スカート：丈は膝が隠れる程度のものであるとする。

○男女とも下着は無地(ワンポイントまで)を着用すること。男子は白、女子は白、黒、グレー、ベージュ。

●身だしなみ指導について

6月は身だしなみ指導を実施しません。指導はありませんが、日頃から身だしなみを整えて生活することが大切です。身だしなみ指導のときだけでなく、日頃からの御指導をよろしくお願いします。



土居高だより



・・・ごめん、ソンさん そしてありがとう

3年学年主任・農場課長 近藤 忠大

話はさかのぼって 29 年前。私が大学の卒業旅行で、友達 3 人とタイのプーケット島に行ったときのこと。

さんさんと照りつける太陽、エメラルドグリーンビーチ、最高の景色を見ながらのシーフードタイ料理はうまかったあ！田舎の専業農家の長男として生まれて 23 年、どれをとっても、刺激的で生涯最高のリゾートと感じた。

その旅行期間中に僕たちはオプションツアーでピッピ島に行った。島には現地ガイドのソンさんが待っていてくれた。彼は非常に気さくな若者で、芸術家志望。芸術学校に行くためにガイドをし、資金を貯めているのである。ソンさんは、「君ハ僕ノ弟ニ似テイル（どうやら僕はタイ人顔らしい。）」と言い、大変親しみを持ってくれすぐに仲良くなった。ビーチで遊んでいるときにもいろんなことを語り合った。昼になり腹が減ったので、みんなでまたシーフードをもりもり食べた。ここで食べたピラフが超おいしかった。やっぱタイ米なりの調理方法があるんだなと思った。

その時、タイ米の話になった。そのころ日本は記録的な冷夏で米不足に襲われ、各国から緊急輸入していた。タイ米も例外でなく、日本で流通され食べられるはずであった。ところがだいたい米の需要が落ち着いてきたとき、一部の日本人はタイ米をマズいと言い、ごみと一緒に捨ててしまった。「ソンさん、このこと知ってる？」と尋ねると、「ウン、シッテル」と答えた。「そのことについてどう思う？」「確カニ米ヲ捨テルコトハ腹ガ立ツヨ、僕ノ家庭モ決シテ贅沢ハデキナイ。デモ、自分ガ日本人ダッタラ、同ジコトヤツタカモシレナイ。」タイ王国は基本的に農業国である。美しい環境に恵まれている反面、貧富の差が大きく、思うように学校に行けない子供もいる。実際に小さな子が額に汗して農作業を手伝っていた姿を、移動中車窓から何度も見た。この記憶を踏まえ、私はスプーンを止め、思わずこの言葉を発した。

「・・・ごめん、ソンさん。せっかくタイの人が一生懸命作ってくれて、助けようと日本に送ってくれたのに。」

すると彼は「大丈夫ダヨ、君ノヨウニ僕ノ国思ッテクレル日本人イルコトガワカッテ、僕ハウレシイ。」自分がソンさんだったら激怒していただろうに、彼はこう言ってくれたのだ。私は泣いた。辛かったがその次にはうれしさと胸がいっぱいになった。鼻水と涙をいっぱい流しながら「うまいうまい」と言いながら、決して残すまいとただひたすらに食べた。ソンさんを含め 5 人はテーブルに用意されていた料理をきれいさっぱりたいらげた。その晩食べ過ぎで腹をこわし、苦しんだのは言うまでもない。

夕暮れになり、本島に帰ることになった。港で別れ際に、露店で売っていたトウモロコシを買ってくれた。その時に「オ互イノ夢ガ叶ウヨウニガンバロウ。」そう私たちに告げ、ソンさんと別れた。

あれから 29 年、ソンさんは芸術家として、きっと母国で活躍しているであろう。私は一足早く自分の夢であった教師になり、今、土居高校で、生徒と一緒に切磋琢磨する毎日を送っている。

私たち日本人は基本ほぼ不便のない生活をしているように見える。なのにいつの間にか、そんな普段の生活が当たり前すぎて、もったいないとか、感謝の気持ちを忘れがちだ。『衣・食・住』の一番大切な『食』に携わる者として、この出来事は一生忘れずに、大切に伝えていこうと思う。

最後に、ソンさんありがとう。君と食べたピラフやトウモロコシの味は一生忘れんけん。これからも自分の目標に向かってがんばろうね。